

ワクチンの研究開発、供給体制の在り方に関する検討会(第9回)議事要旨(案)

日時 平成18年4月21日(金) 10時00分～12時00分

場所 KKRホテル東京

出席者

(委員) 神谷齊座長、飯沼雅朗、大森豊緑、岡部信彦、堺 晴美、篠原恒夫、
中村省三、東 雍、三村優美子、宮崎千明、山西弘一(敬称略)

(事務局) 医薬食品局 関血液対策課長、植村血液対策課企画官他
医政局 二川経済課長

議題

1. 「ワクチン産業ビジョン」に向けて
2. その他

議事概要

1 議題1 「ワクチン産業ビジョン」に向けて

事務局より、前回までの議論に基づき作成された資料B「ワクチン産業ビジョン(たたき台)」について紹介し、「ワクチン産業ビジョン(たたき台)」の内容について討論を行った。

(意見・提案)

- ① 少子高齢化の進展の中で小児医療を充実させる必要があり、その中でのワクチンの重要性や関与の必要性について明確にするべきではないか。
- ② 日本のワクチンメーカーが世界のメーカーと対抗して事業を展開していくという環境が必要である。
- ③ これまでのように日本脳炎とインフルエンザワクチンに依存してきた産業体制では危ないのではないか。
- ④ 少子化の環境や、研究開発に係る費用対効果の問題を考えると現状のままでは、ワクチン事業の継続は困難であり、早く手を打つ必要がある。
- ⑤ ワクチンの研究については、関係機関で連携して対応する必要があるが、これにワクチンメーカーも参画して官民一体で実施していくことが重要ではないか。
- ⑥ 世界的にみて日本で定期接種となっているワクチンの種類は少ないことや、自己負担が減れば需要は伸びることが期待されることから、定期接